

(対象事業：先進的な展示・教育普及手法の開発等の事業)

事業名：むかし体験「江戸時代を旅しよう」

事業者名：四日市市立博物館

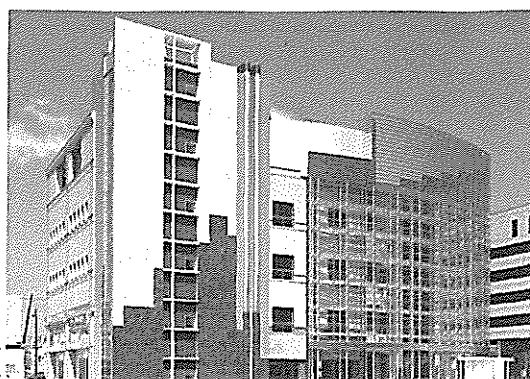
連携事業館名：

住 所：三重県四日市市安島一丁目3番16号

TEL：0593-55-2702

FAX：0593-55-2704

HPアドレス：<http://www.city.yokkaichi.mie.jp/museum/>



①施設概要

貴重な文化遺産の保存と活用を図り、郷土の歴史や風土に関する市民の知識と理解を深め、今後の市民文化の創造に寄与する生涯学習の場のひとつとして、平成5年開館。常設展示では、四日市の文化と生活環境を基本テーマに、地質時代から現代までを6つのテーマゾーンに展示。

また、当館の特色として、プラネタリウムを併設しており、歴史と科学を融合させた文化の拠点として、情報発信をおこなっている。

②事業の意図目的

常設展示の活用と学校教育との連携を考慮しながら、地域に根ざした身近なテーマを取り上げ、子どもたちが四日市の歴史や文化に親しむための展示とワークショップの手法とそのために用いるキットの開発を行う。事業を通して東海道や伊勢参宮道を理解し、江戸時代の旅を疑似体験することにより、その時代についての理解を深め、宿場町としての四日市の歴史に親しむ機会とするほかに、常設展示に対する理解との相互作用にも期待したい。

③事業概要

◆「東海道と四日市」 10月13日（水）～11月21日（日）

常設展示室に特別展示コーナーを設置し、旅の道具・浮世絵等の展示。また、振り分け荷物・手甲、脚半、菅笠、駕籠等の体験用資料の展示。

◆むかし体験「江戸時代を旅しよう」

市内の小中学生とその保護者を対象に3回連続のワークショップ

10月23日（土）「江戸時代の旅と東海道をさぐる」

10月30日（土）「わらぞうりをつくろう」

11月20日（土）「わらぞうりをはいてむかしの旅をしよう」

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 ワークシート 体験用資料

作成した報告書等

ビデオ（

冊子（

その他（

）

）

）

⑤参加者状況

参加者人数 延べ 3,179人

内 訳 「東海道と四日市」 3,127人 「江戸時代を旅しよう」 52人

(1) 事業の実施状況について

当館では、常設展示の活用と学校教育との連携を図る目的で、常設展示室内において「学習支援展示」というミニ展示を年4回企画している。どの展示も地域に根ざした身近なテーマを取り上げ、実物資料や体験用キットを通して子どもたちが四日市の歴史や文化に親しめるように心がけている。

◆ 学習支援展示「東海道と四日市」 10月13日～11月21日
東海道と伊勢参宮道にスポットをあて、以下の展示を行った。

- ① 常設展示のジオラマ模型や浮世絵等の資料から江戸時代の四日市がどのように発展したかを探る。
- ② 当時の旅道具や旅姿をレプリカ等で体験するコーナーの設置。
- ③ 当時の旅道具の実物資料展示と現在の旅道具との比較。

地域学習や歴史学習を目的とした学校団体の利用が多い展示であった。四日市を中心にした伊勢七宿の浮世絵展示では、浮世絵のなかに登場する働く江戸時代の人々をさがすワークシートを作成した。そのためか、子どもたちは真剣に浮世絵に描かれている人物を探していた。蛤を焼く人・饅頭を売っている人・宿泊を勧める人・馬をひく人等を探しながら、東海道の賑わいを浮世絵を通して感じられたと思われる。また、この地域の名産である蛤や饅頭が当時から売られていたことに気づく子どもも少なくなかった。

本市は、東海道と伊勢参宮道との分岐点である追分があり、追分の浮世絵には、伊勢参りでよく使われた三宝荒神鞍（三人乗りの鞍）が描かれている。また、伊勢市の老舗の饅頭屋では、包装紙に三宝荒神鞍に乗った旅人が描かれている。この度の芸術拠点形成事業の支援を受けて、この地方特有の鞍である三宝荒神鞍の体験用キットを制作することができた。子どもたちは、馬の両脇にある方形の台座に乗ることで、台座の小さいことを実感し、当時の人々の背格好をも想像したことであろう。

これらのことから、浮世絵を美術品として鑑賞するだけでなく、描かれたものから当時の様子がいろいろとわかってくることを子どもたちに理解させられた。

旅道具や旅姿をレプリカで体験するコーナーでは、試行錯誤しながら草鞋を履く姿・声をかけあい駕籠を担ぐ子どもたちの姿が印象的であった。ただ見学して知識を得ることだけでなく物に触れ、体験することができる展示形態は、子どもたちにとって興味が沸く魅力的な展示であることを再認識できた。駕籠に乗り担ぐ体験をした子どもは、担ぐ重さ・乗った時の不安定さを実感し、時代劇の一場面に出てくるような駕籠を担いで走る大変さを知るのである。また、道中差のレプリカを手にしては、その重さに驚くのである。「みて・ふれて・かんじる」ことができる展示のスタイルは、今後ますます教育現場や子どもたちに受け入れられていくと思われるが、ただ単に体験させれば良いのではなく、そこに実物資料が存在しているからこそ体験活動が活きてくるのである。

◆ むかし体験「江戸時代を旅しよう」

学習支援展示「東海道と四日市」と連携し、さらに内容を深めた3回連続のワークショップ。申し込み制（定員10人）で、市内在住の小学生7人が参加。
各回の内容は以下の通り。

- 第1回 10月23日（土）「江戸時代の旅と東海道をさぐる」
参加親子にワークショップの説明・ギャラリーツアー
- 第2回 10月30日（土）「わらぞうりを作ろう」
親子で藁草履作りに挑戦。（後日完成した藁草履を履いて東海道を歩く）
- 第3回 11月20日（土）「わらぞうりをはいてむかしの旅をしよう」
藁草履、手甲・脚半、菅笠をかぶり東海道を歩く

学習支援展示は学校団体利用を想定しているが、ワークショップは、参加した子どもたちと個々に対応し、触れ合うことが大切と考えるため、少人数を原則としている。また、当館のボランティアによる学習支援を得て、ギャラリーツアーにおいても異学年の参加者個々に対応することができた。

わらぞうりづくりは、当館ボランティアを講師として実施した。参加親子で体験することによる効果（親子の交流）は、期待通りのものであった。作り方の手順・道具については、事前にボランティアとの調整・打合せを2回行った上で実施した。初めてわらぞうりづくりに挑戦する親子ばかりであったが、複数のボランティアが同じ指導方法で対応できたため、参加者に混乱はなくスムーズに製作することができた。ギャラリーツアーで草鞋をはいた参加者は、「足が痛かった」という感想が多かったが、実際に自分で作ったわらぞうりでは、完成した喜びが大きいのであろうか、「痛い」という言葉は聞かれなかった。

完成したわらぞうりを履いて東海道を歩くワークショップでは、何度か下見した結果交通事情を考慮したコース（四日市市内～日永追分 約3km）を設定した。当時の面影を残す場所が少ないのが現状であるが、ギャラリーツアー時に見た浮世絵「日永の追分」をゴールとし、浮世絵と比較しながら当時の面影を感じてもらうことを旨とした。

*当日のタイムスケジュール

- 9:30 四日市市中央緑地公園集合
- 9:40 コース説明、出発準備（手甲・脚半、菅笠、藁草履を着用）
- 10:00 出発
- 10:30 日永神社（東海道で一番古い道標がある）
- 10:50 一里塚跡
- 11:10 名残の松（当時の松並木が1本だけ現存）
- 11:30 日永の追分着

（2）地域との連携について

むかし体験「江戸時代を旅しよう」のワークショップでは、当館の企画を知った地元の「歩こう会」のメンバーが、藁草履作りから参加した。当館職員・ボランティア・歩こう会のメンバー・参加児童の保護者も含めると子どもたちの人数よりも圧倒的に大人の人数の方が多くなったが、交通量の多い東海道を歩くにあたって、多くの大人の目が行届くことになった。また、いろいろな大人たちと関わることで、子どもたちも生き生きと活動していたようであった。

今回は「歩こう会」の方々から申し出をいただいた結果、共に活動することができたが、地域で活動している多種多様なグループとの連携を図るためにも、アンテナを高くして地域とのネットワークづくりを心がけたい。

(3) 成果物について

●学習支援展示「東海道と四日市」で使用したワークシート

小学校高学年を対象としたものであるが、低学年でも意識づけになるよう浮世絵の絵さがしを取り入れた。

●体験用資料

手甲・脚半、菅笠（大人用・子ども用）

合羽、蓑、提灯

道中差

三宝荒神（三人乗りの鞍）

制作した体験用資料は、学習支援展示以外にも学校からの要請により団体見学や総合的な学習等で来館した小中学生に体験してもらった。今後は、学校への貸出しや当館における常設展示室内での企画が考えられる。そのために、教職員のための研修等で体験用資料を紹介し、学校・園での活用を促進したい。

また、本年度の企画をさらに充実させるため、館にある別の体験用資料との組み合わせによる体験も考慮し企画するとともに、本年度の事業を写真パネル等で館内に掲示・紹介したい。

(4) 参加者の反応

2年生男子

むかしのどうぐで、知らないものがいっぱいあったし、いろいろなことがわかってよかった。わらじがいたかった。

2年生男子

わらじをはくのがむずかしかった。えどじだいの人たちのもちものがわかった。とくに、まくらをもってたびをしていたのにはおどろいた。むかしのすごろくがおもしろかった。

3年生女子

わらじはいたかったけど、手甲や脚半とかをつけて、かごに乗って楽しかったです。すご六も楽しかったです。昔の人の旅は大へんだったことがわかりました。すご六まで旅みたいになっているなんてびっくり。もっとすご六やりたかったです。

3年男子

わらじをはくとき、はくぶつかんの人にてつだってもらって、はずかしかった。わらじは、チクチクしていたかった。すご六は一回休みばかりだったけど、おもしろかった。江戸じだいの道具って、今でもべんりそうなものがいっぱいあった。

3年生男子

江戸じだいのたびの道具をしることができた。とうかいどうを歩くのに460キロぐらいあるのに2しゅうかんでいけるとはおもいませんでした。むかしはたびをするのに、しょうめいしょがひつようだったとは思いませんでした。

4年生女子

かさをかぶるのはまだよかったけど、わらじをはくのはちくちくしていたかった。かごにのったらこわかった。こんなにこわいとは思わなかった。昔のひとのかっこうをするのは、あまりやりたくなかったけど、つけてみたらいいとおもしろかった。

5年生女子

江戸時代のころのかっこうは、着るだけでも大変でした。わらぞうりも、はくだけで一苦労でした。わらがささったりして、いたかったです。かごをかつぐ人も力持ちじゃないと無理だろうな。さいふの事をなんで「早道」っていうんだろう？昔もお伊せさんにたくさんの人がいったこともわかりました。今日は、なんか江戸時代の人になった気分になりました。楽しかったなア。

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

「学習支援展示」（旅の資料や浮世絵、体験用資料等の展示）を通して団体見学利用の小学生を中心に、東海道の宿場町として発展した四日市の歴史や江戸時代の旅について学習支援することができた。むかし体験「江戸時代を旅しよう」では、ボランティアや地域の団体との協働を通して、子どもたち個々に対応することができ、なおかつ参加した親子の交流を深めることができたと考える。

今回の事業を実施するにあたり市内小学校全児童へ案内チラシを配布した。それにより、参加の有無に関わらず館の事業を周知することができた。また、館にある別の体験用資料との組み合わせによって、より効果的な体験を実施することができた。

むかし体験「江戸時代を旅しよう」活動の一場面



「三宝荒神鞍に乗ってみたよ」



「追分に着いたよ！湧水がおいしかったよ」

うきよえ え ど じ だ い ひ と び と
 浮世絵から江戸時代の人々をさがそう

四日市市立博物館

え ど じ だ い よ っ か い ち た び ひ と び と と し ゅ く ば ま ち
 江戸時代に四日市は旅する人々が泊まる宿場町でした。いろいろな
 ひ と よ っ か い ち と み だ お い わ け と お し ゅ く ば ま ち は た ら ひ と
 人が、四日市や富田、追分を通りました。そして、宿場町で働く人
 もたくさんいました。どんな人たちが江戸時代にいたのか、さがし
 てみましょう。

はまぐりを焼いている人
 (富田や朝日町で有名)



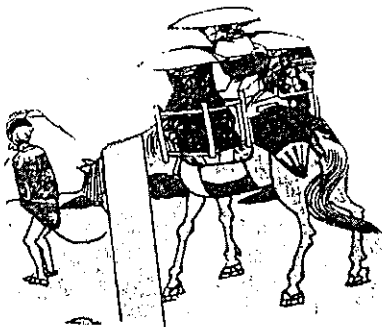
()

おまんじゅうを売っている人
 (追分にたくさんあった)



()

泊まるようにすすめる宿屋の人



()



()

とうかいどう
 東海道ではいろいろな人が通ったのです。ほかにどんな人がいたで
 しょうか()

たび
 旅する人たちはどこにいったのでしょうか

()